

ボツワナ通信 NO.10

柔道ノート

ずっと前から柔道の為のノートを1人一冊作るように言って来たのですが、一向に作らず、金銭的な面で問題がある事を知り、JICA事務所の支援を得て、ナショナルチームの選手分のノートを購入し、柔道ノートを始めました。

現在のところ、浸透具合は上々です。毎日一生懸命書く選手、練習中にも気がついた事を書くような熱心な選手もいれば、全く書

かずに提出する選手、残念ながら早速無くした選手等々、個人差はありますが、そんな選手達に私は拙い英語でコメントし、自作の柔道に関する資料を貼付けて返却しています。私が帰国する頃には一冊の柔道の教科書のようになっていることを期待しています。

第2回アフリカユースゲーム in ボツワナ アフリカスポーツの祭典

2nd African Youth Games in Gaborone が5月22日から31日にかけて盛大に開催され、期間中は、54カ国から、約2500名の選手が集まり、21競技で熱戦を繰り広げました。

今大会は、16歳から18歳が対象の大会です。アフリカでもスポーツは情操教育の一環として積極的に取り入れる国が多くあります。ボツワナもその国の一つで、この年齢層の競技者人口が最も多く、スポーツも盛んに行われています。

スポーツ選手への待遇が貧しい、他の国々も同じであると思いますが、ボツワナでは、高校や大学を卒業後に競技者として残る道は、非常に狭き門になってしまいます。競技者として、スポーツで生計を立てられるのは、本当にごく一握りで、現状では、サッカーや陸上競技ぐらいのようです。ボツワナ政府には十分な予算があるのだから、街中にたくさんのショッピングモールを建てるのを止め、思い切ってスポーツに予算を費やして、オリンピックセンターのようなスポーツ選手養成所を立てるぐらいの政策を取ってほしいと常々思います。



開会式

開会式が行われたナショナルスタジアムには、今までに見た事の無い数の大勢の人が集まりました。各国の入場行進では、それぞれの国々の伝統衣装で選手団が入場しました。ボツワナ代表チームは、ボツワナの伝統衣装であるジャーマンプリントで作られた衣装で参加しました。最後のとりをつとめるボツワナ選手団が入場した瞬間、ナショナルスタジアムは、割れぬばかりの大歓声に包まれました。



式典は、短い時間でしたが、ボツワナの良さをアフリカ諸国に存分に見せつけてくれたと思います。最後は、たくさんの鮮やかな花火で締めくくられ、まさにアフリカのオリンピックでした。

選手団は、大統領公邸から招かれ大統領とランチを共にし、大臣主催の夕食会にも参加させていただくなど、国を挙げて盛大に壮行していただきました。このようなイベントのある年にボツワナにいられる事、柔道チームを率いる立場に座らせていただいている事を誇らしく思った式典の数々でした。



柔道競技

私が代表を率いるようになってから、一つの区切りとして位置づけていた今大会。選手達は、今持っている実力を存分に発揮し、ボツワナチームは、金1、銀2、銅2、合計5つのメダルを獲得する事ができました。この結果から、7月にイギリス、スコットランド首都グラスゴーで行われるCommonwealth gameに5名の選手、8月に中国南京にて行われるユースオリンピックに1人の選手の出場が決まりました。



試合では、地元の大声援、様々な人からの期待やプレッシャーに負けることなく、見違えるように成長した姿を大勢に見せつけ、最後まで諦めずに堂々と戦ってくれた選手は私の誇りです。彼等

は、ボツワナ柔道界始まって以来の快挙を成し遂げてくれました。

また、惜しくもメダルに手が届かなかった第5位が3人。紙一重の差で負けた選手もあり、改めて勝負の厳しさを痛感しました。

選手達の中には、試合で負けた後に「先生勝てなくて、ごめんなさい。」と涙を流しながら謝る選手もいました。結果に納得できず、悔しがり、私に対して謝ってくるのです。もちろん選手は、自分の勝利の為に試合をしています。監督である私の為にも「勝ちたい」という気持ちが、厳しい練習や生活を共にする過程で芽生えていたのです。改めて、彼等の為に頑張らなければならないと思いました。本気で「勝ちたい」「強くなりたい」という気持ちを持った選手に囲まれている事に対して、幸せに思いました。



Team BOTSWANA

柔道の競技終了後も選手村に閉会式まで滞在し、他競技の応援とサポートに回りました。ボツワナのボクシングや空手は、アフリカでは強豪国の一つであり、今大会では他国を圧倒し、メダルを量産していました。チーム競技では、ネットボールが強化を実らせ、見事3位入賞を果たしました。陸上競技も飛躍し、短距離、中距離、長距離で多数のメダルを獲得しました。ボツワナ選手を応援団が一体となり、声援を送り、選手がその期待に応えてくれました。また普段は、接する事の少ない他競技の熱戦を見ることもできました。私は、その輪の中で、胸が熱くなる思いを何度もしました。国の代表として、戦ってくれた選手達に「感動をありがとう」と言いたいです。当初のメダル獲得数の目標は30個でしたが、それを上回



る合計34個のメダルを獲得しました。

閉会式

5月31日、10日間に及ぶ大会が閉幕しました。大会期間中、ボツワナでは、とても珍しい交通渋滞、たくさんの車。普段は目にする事のない人ごみ、活気に溢れた出店、大会期間中、いつもの馴染みある光景が変わり、その全てが新鮮でした。そして、未来の五輪選手が集まった選手村、この中から東京五輪に出場する選手がたくさんいるのだろうと思いながら、彼等との交流を深めました。2年後は、アルジェリアで今大会が開催されるようです。

また、この年代の選手は2020年の東京五輪開催時に競技者としての最盛期を迎える年頃だと思います。6年後に成長した彼等との再会が今から待ち遠しいです。



2014年5月31日 青年海外協力隊 ボツワナ 柔道隊員 井坪圭佑